

令和 5 年度 県立水戸農業高等学校自己評価表 (全日制)

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人ひとりの多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育課程において、体験的な学びから知識・技術を確実に身につけ、就職から進学までの進路希望を実現する		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動しようとする意志を持った生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
[昨年度の成果] ・HR、立哨指導及び保護者との連携等を通じた反復指導で基本的生活習慣を身に付けさせるための指導を実施した事により遅刻生徒が2割減となる。 ・進路指導において、四年制大学では23名(農業系8名)、短期大学では7名(農業系0名)が合格した。 就職においては就職率100%を達成した。 ・ボクシング部、なぎなた部の全国大会出場や馬術部・相撲部が関東大会出場など各部とも優秀な成績を収めることができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策については、ガイドラインに沿って感染拡大防止に努めることができた。 [課題] ・身だしなみ指導を中心に規範意識を高め、規則を守れる生徒を育てる。 ・思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別評価を徹底させる。		・基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の有為な形成者としての人格の完成を目指す。 ・豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力の育成を図ることで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。	A
		・基礎学力の向上と系統的な進路指導体制の確立	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、生徒に適切な支援・指導を行う。	A
		・新しい生活様式での特別活動及び部活動の活性化とキャリア教育の推進	・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。また、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。 ・運動部・文化部等の加入率の向上を図り、部活動の活性化に努める。 ・キャリア・パスポートを活用して、HR活動等を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	A
		・健康と安全教育の充実	・学校施設等の点検・充実に努め、安全な校内環境の整備を進める。安全教育の徹底、特に交通事故の絶無に努める。 ・防災、不審者対応などのマニュアルに基づいた危機管理を徹底し、訓練等による十分な備えを怠らないようにする。 ・生徒及び職員の健康管理に努め、新型コロナウイルス感染症等の防止、	A

別紙様式 2 (高)

・進路指導部と各学年との連絡を密にし、1 年次から体系的な進路指導体制を確立することで進路意識を高める。 ・部活動紹介を実施し、部活動加入率の上昇と各部活動の更なる活性化を図る。 ・農業クラブ活動をより活発にし、体験を中心とする農業教育を充実させ、魅力ある学校行事を実施する。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。			健康の保持増進を図る。		
		・農業専門教育の充実と地域連携	・チャレンジプロジェクトへ取り組みを推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組みせ、学校農業クラブ活動の充実を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。 ・GIGA スクール構想、BYOD の推進による個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。		A
		・アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善	・教わる授業から学び取る授業へとつなげるため、ICT の活用や、地域の特長を生かした地域社会との交流を通し、課題を見いだし解決策を講じるなど、自己の考え方を広げ「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。 ・授業満足度（KPI）80%超を目指す。		A
		・働き方改革の推進	・学科や部門ごとに業務内容の見直しや ICT の活用等による事務の効率化を図り業務量の削減に努める。 ・教職員の健康を守るため、教育環境の整備を図るとともに学校運営の在り方等を見直し、定時退勤日の設定や時間外在校等時間の縮減に努める。		B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	基礎学力の向上	B	A	授業動画配信サービスを活用した学習の充実を図る
		授業での I T 活用を推進し、情報機器の整備・拡充を図る。また、タブレットを活用した授業の充実を図る。	A		教科基準の精査を行う
		新教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。	B		—
		新学習指導要領に対応した新たな教育課程を編成する。	A		参観後のフィードバックの深化を図る
	基礎学力の向上	授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。	B		選択授業の在り方の検討と適切な運用を行う
		基礎学力の向上を目指し、進路指導部や学年団との連携を図る。	A		資格の精査や指導体制の構築を図る
		進路指導部や農場部との連携により資格取得に向けての取組を強化する。	B		更新回数アップを目指す
	広報活動の充実	情報関連部門を中心に、ホームページの定期的な更新・内容の充実を図る。	B		学年・進路との連携強化を図
		奨学金制度の広報活動を充実させ、生徒の進路実現の一助とする。	A		

別紙様式 2 (高)

					る
		中学生や受検生に向けて、学校見学会、学科体験、部活動体験を充実させていく。 また、出前授業や実習の受け入れ等を積極的に行う。	A		学校見学会、学科体験の内容と精査と充実を図る
	教育情報ネットワーク環境の整備	校務支援システム・校内ネットワークシステムの整備を進める。	A		Wifi 環境の向上を目指す
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	立哨指導等を通して、挨拶の励行や身だしなみを整えさせ、学校生活における基本的生活習慣の確立を図る。	B	B	身だしなみ指導、遅刻指導の徹底
		ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。また、授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。	B		
	安全な学校生活環境の維持	立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。また、自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。	B		安全教育講習会の実施 ヘルメットの着用率の向上
		各種啓発教室や講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	B		
	心の教育の推進	教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。	A		SC・SSW 等の積極的な活用
		自らの立場を理解して他を思いやる心を育成するため、各種体験活動への参加を促す。	A		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。	A		GoogleForms 等を利用したアンケート実施
		早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。	B		
		早期解消に向け被害者を保護し、保護者や警察、相談所等と連携し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。	A		
特別活動	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動・農業研究部活動も活性化を図る。	B	A	・部活動の加入率を上げる多面工夫が必要である。 ・退部率を抑えるためのことを考えるべき。 ・清掃に関して一部の部に偏りがでないようにすべき。 ・部活動のリーダーの育成。集会等を開き、活動報告会を開催するとよいのではないかな。
		活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B		
		各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実を努める。	A		
	学校行事の充実	各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A		
	成達会活動の充実	HR 活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	A		
	キャリア・パスポートの活用	HR 活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	B		
		部活動月間計画表に予定・結果を入力することで、休業日の確保に努める。	A		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現への対応)	3 年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。	A	A	・係分担の綿密化・希望する進路についての適性や進学応募先の助言と受験対策の徹底が必要・漢字、作文力の向上をめざしアプリ等の活用と指導が必要・共通テスト受験者に対する補講の実施
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	A		
		各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。	A		
		係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	A		
	進学指導の充実	推薦・AO 入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。	B		

別紙様式 2 (高)

		大学説明会や大学見学会への積極的な参加を促し、希望する進路実現を目指す。	A	A	・進路に対する生徒への早期支援を充実させ目標を早めに設定させる・国立大志望生徒に対するサポートを充実させる
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	A		
		積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	A		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断・保健調査により生徒の健康状態を把握し、健康指導に活かす。	B	B	本校の健康課題を明確にし、保健だより等で周知指導していくことや個別指導を充実させていくことが課題である。
		感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A		校内ガイドラインを見直すことができた。毎年ブラッシュアップしていくことが課題。
		生徒の安心・安全のため、スクールカウンセラーなど関係機関との連携を図る。	A		積極的なスクールカウンセリングを活用していくことが必要。
	校舎内外の学習環境の安全と防火防災対策の徹底	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	B		引き続き全職員で指導・監督の徹底に努める必要がある
		地域と連携した防災避難訓練を実施する。	B		本年度は、地域との連携ができなかったので、来年度はその計画をする必要がある。
	教職員の働き方改革の推進	教職員が、健康的に仕事をして、教育活動の質を高めるために、一週間に一度は定時退勤をするよう働きかける。	B		衛生委員会等でどのようなことができるのか検討していくことが課題である。
		教職員のストレスの軽減のために、相談体制の拡充を図る。	B		
	図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門高校として、関係書類の整備に努める。		B
職員研修の成果として、紀要を発行する。図書・視聴覚資料等の整備に努める。			A		
学校図書館を利用した教育の充実		教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。	B		
		図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A		
視聴覚機器の充実と利用		授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	B		
学校図書館の施設・設備の充実		視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	B		
司書作業の研修と蔵書の整理		利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	B		
渉外部	本部役員・学年委員の連携とPTA活動の充実	各PTA行事において、本部役員と学年委員の連携を図り、PTA活動の充実を図る。	A	A	本部役員に負担がかかりがちなので、学年委員との連携をどのように工夫するかが課題である。
		PTA活動の精選と内容の充実	A		今年度の事業を継続するにあたり、学校・生徒のための活動内容を充実させることが課題である。
	校外生徒指導の実施	校門での登校指導を多くの会員で実施していく。	B		どのような立哨指導が必要か、実施方法の検討が必要である。
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・研修会等の本部主催行事は工夫を凝らし、安全で安心できる環境を整え	A		保護者の参加率を維持するため

別紙様式 2 (高)

		参加率を高める。			に、引き続き工夫をこらす必要がある。
	広報活動の充実	広報紙・HP等での行事の案内や報告等、スピーディーで、わかりやすくPTA活動を広報していく。	B		個人情報の観点から、広報誌の今後の在り方を見直す必要がある。
農場部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	校外実習体験活動を再開させ、交流活動をととしてコミュニケーション力を向上させる。	A	A	危険物取扱者、農業技術検定、情報処理検定など複数の学科から受検する資格の指導について、よりよい指導方法の検討と学科間で情報共有が必要。
		各種の資格取得率で昨年度比100%以上の合格者数を目指す。	B		
		自宅就農、雇用就農者、新規就農、それぞれに対応した就農支援を充実させる。	B		
		プロジェクト発表会・競技会等への取り組みを支援し、入賞者を増やす。	A		
	開かれた農場と地域交流の充実	幼保小中学校等に体験活動の場を提供し、交流活動や地域連携の継続発展を推進する。	A		
		産官学連携を推進し、地域資源開発や地域活性化に向けた学習活動を推進する。	A		
		直売会を年間10回程度開催し、生産物の販売をととして地域活性化に貢献する。	A		
	デジタル情報の活用とスマート農業への対応	タブレット・ICT活用授業数を2倍に増やし、デジタル情報の共有化を促進する。	B		
寮務委員会		老朽化する施設設備の更新を促進し、スマート農業に対応した農場を目指す。	B		他教科や他校の進んだ活用方法を研究し取り入れる。
	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	B	B	教員の生徒監視体制の構築
	寮運営の改善及び活性化	長期生の増減に伴った寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮と農場との連携を検討する。また、営農講話など、就農に関する行事をできる限り実践する。	B	B	義務入寮の運営体制の検討
1 学年	家庭・地域との連携	寮の生活・規則について、保護者に対して周知・連携を図る。	A	A	こまめな家庭連絡の実施
	良好な人間関係の構築と基本的な生活習慣の定着	良好な人間関係の構築のため、授業やホームルーム、集会等を活用して、個人の多様性を認め合い、コミュニケーションが活発になるように努める。それにより、基本的な生活習慣の定着に努める。	B	B	様々な手法を取り入れ、個人の多様性を認め合えるよう努める。
	進路実現に向けたキャリア・パスポートの実施	基礎力診断テスト、性格適性検査をもれなく実施し、振り返りを行い、基礎学力の向上に努める。進路指導部等と連携を図り、進学・就職に向けた講演、グループワーク等を実施し、その都度、進路の手引き等を活用し、キャリア・パスポートの一助とし、自己肯定感を高め進路実現につなげる。	A		クラッシーの導入し、今年度以上に活用していき、基礎学力の定着を目指す。
2 学年	積極的に活動に参加する生徒	農業クラブ活動をはじめ、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域社会で必要とされる人財の育成を目指す。	B		各クラスで積極的に活動できる生徒を抽出し、クラスをけん引できる人財をつくる。
	学習の習慣を身に着け基礎学力の向上させる	常識力・基礎学力の向上を目指し、SPI問題集や課外授業を計画的に実施して、学習の習慣を身に着ける。	B	B	学習の習慣を身に付けることを目標としたが、学力の向上は困難であった。今後は問題集や外部の模試などを活用して、学習の習慣が身に付くようにしたい。
	進路指導の充実	進路ガイダンスや体験学習を通して、進路希望を明確にさせるとともに、能動的に取り組む	A		進路ガイダンスや小論文の課

別紙様式 2 (高)

		姿勢を醸成し、希望進路未定者率を 10%以下にする。			外を通して進路の意識を高めることができた。今後も生徒の希望に合わせた指導に取り組みたい。
卒学年	進路希望の実現	個々の進路実現のために、生徒・保護者とのコミュニケーションを密にし、進路指導部・学科との連携を深めながら、小論文指導・面接練習などを繰り返す行う。	B	B	生徒の希望に合わせた特に個別の進学指導が必要
	基礎学力・社会性の向上	S P I 問題集・模擬テストを計画的に実施して、常識力・基礎学力の向上を目指す。また、各教科および選択の授業を踏まえた上で、さらに課外授業等できめ細かい指導を行う。	A		問題集の積極的な活用と生徒自身の自己評価の充実
	規範意識の高揚	遅刻・欠席・身だしなみ指導や、進路ガイダンスを通して、規範意識や社会的マナーを身に付け、基本的な生活習慣が確立するよう促す。	B		日々の徹底した働きかけと意識向上へのガイダンスの実施
農業科	農業教育の充実	農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高めるとともに専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A	B	継続的にプロジェクト学習に取り組み情報発信を行う。
	基本的な生活習慣の確立	規則や時間を守り、自立できる基本的な生活習慣を育てる。教師側も時間を大切に授業や実習を行う。	B		各教科において遅刻防止や身だしなみ等の決まりを生徒にも分かりやすく繰り返し周知する。
	進路希望の実現	専門的な分野の知識を定着させるため資格や鑑定競技などに積極的に取り組む。	A		ICT などの活用も行い、早期に進路意識の醸成を図る。
	学習環境の安全と美化	農場の整理整頓に努め、SDGs を意識したごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	A		安全管理を徹底するとともに、持続的な取り組みを行う。
	観点別評価のさらなる推進と授業の改善	指導と評価の一体化による授業改善や生徒の学習意欲の向上を図る。	B		繰り返し評価基準を伝えることでクラス全体の意識向上を図る。
畜産科	農業教育の推進	多種多様な動物に触れ、生命の大切さ、尊さ、思いやりや環境への関心を高める。	A	A	知識・技術の定着までは至らなかったが、授業から進路実現に向けた指導ができた
		専門科目の座学や実習をととして、知識や技術を定着させ進路実現の一助となるよう教育内容の充実を図り、進路実現に結び付ける。	A		
		農場 HACCP を取り入れ、衛生管理の徹底および必要性を理解させ、定着させる。	B		
	理解につながる授業改善	ICT 機器を活用した授業展開から、専門科目への興味・関心や理解力を高める。また、課題研究をととして意欲的に学習する態度の育成を図る。	A		畜産場のネットワーク環境を整え、より多く ICT を取り入れていきたい
	プロジェクト学習の推進	プロジェクト学習の展開等、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	B		施設・設備の更新が必要
	畜産場の地域社会への開放	教育関連機関に体験活動の場を提供し、交流活動や地域連携の持続発展を推進する。	A		継続した地域連携が必要
園芸科	授業改善によるわかりやすい授業の展開	観点別評価等を活用し、授業改善を図る。専門科目における教室授業(座学)と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	A	評価基準の精査と、座学・実習・校外活動を有機的に結びつける授業計画の検討。

別紙様式 2 (高)

	園芸作物の栽培技術の習得と経営感覚の醸成	プロジェクト学習への取り組みを充実させ、自ら栽培した農作物を販売することで、消費者のニーズを意識したマーケットインの考え方を身に付けさせ、直売会や地域との連携事業に積極的に参加させることで、経営感覚の醸成を図る。	A		那珂市商工会議所との協働プロジェクト「ローゼルの商品開発」の発展と商品活動の開始。
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	地域や関係機関との連携を深められる活動を強化することで、自ら問題を解決していく力とプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。	A		
農業土木科	理解に繋がる授業改善	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業に改善し、目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	B	B	授業担当者によって、学習・修得内容に差が出ないようにカリキュラムを見直す。教員間の連携等を図り、学科会議を定期的実施する。外部との連携事業を行い、最新の技術を知ること、土木技術に興味を持たせる。
	理論と実技の一体化	理論と実務演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	B		
	プロジェクト学習の推進	社会貢献及び地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	B		
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを学校内および校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成及びシティズンシップを高める学習機会を整える。	A		
生活科学科	わかりやすい授業の展開	学すべき技術・知識等は実習を通して生徒が理解できるようにする。具体的には学すべき内容をはっきりさせ、実習前に生徒に示す。また、実習後は振り返りを行い、生徒に技術・知識を定着させる。	A	A	授業の中で進路に結び付くきっかけになるようなアプローチができた。
	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物を作り、自給の体験を通して生きるということの本質を理解させる。	A		校内外での、体験や実技講習等は充実させることができた。
	作物栽培から加工までを分かりやすく学ぶための授業改善	作物を栽培から調理・加工して食べることにに対する興味・関心を高めるために授業改善を行い、食べることの本質を分かりやすく理解する。	B		ICT を取り入れた授業をさらに増やすことが課題である。
食品化学科	授業改善による分かりやすい授業の展開	ICT 機器を活用しつつ、学習効果が高くなるように授業改善を生徒の実態および理解度に応じて行い、農業および食に対して興味関心をもって学習する態度の育成を図る。	A	A	授業改善に努め、大いに ICT を取り入れた授業を行った。
	資質向上および自己実現を可能にする教育課程の充実	プロジェクト学習を通じて、課題を解決したり、問題に対して様々な方法で取り組んだりして、資質や能力の伸長を図る。資格取得やインターンシップ、体験学習を交え、職業観を醸成する機会の創生と実現、関係機関との連携を強化する。	B		校内外での、体験や実技講習等は充実した反面、資格取得は合格率が芳しくなかった。
	対外的な活動の充実	外部の機関および企業、農家との連携を実現し、生産物直売所実習やインターンシップを活用した体験学習を展開し、マーケティングの考え、経営感覚の醸成を図る。	A		外部連携により、実践的な経験を積ませる機会が作れた。
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	A	A	授業(資格取得)・身だしなみ・インターンシップなど、進路を意識させるため活動を充実させることができた。広報活動は、できなかったのて来年度に引き継ぎたい。
	学習意欲の向上のための授業改善	生徒の理解度が高まるよう、全体での授業だけでなく、個人に応じた授業を展開できるように改善を図る。	A		
		インターンシップなど校外でも活躍の場を広げ、生徒の自主性を育てる。	A		
	進路指導の充実	進路意識を高め、自己の進路実現のための態度を育てる。	A		
	広報活動の充実	ホームページや学科通信の充実を図る。	C		
国語科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ、授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	A		教材研究や教員間での情報共

別紙様式 2 (高)

		授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。	B	A	有を徹底し、個に応じた指導の充実を図る。また、ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学べるような学習を充実させる。引き続き言葉の力の育成に努める。
		漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	B		
	表現力の向上を図る授業改善 (進路対策)	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成するような授業改善を行う。多様な教材を活用し、自ら考える力を養い、自己表現力を高め、個に応じた個別指導を充実させる。	A		
地歴・公民科	歴史的過程と地域的特色の違いを現代社会の問題解決につなげる授業改善。	新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝えるための授業改善を図る。	A	A	教材研究の充実を図り、新課程科目に対応した生徒の考える力に重点を置いた展開をしていく。 時事問題を取り上げながら、主権者として必要な知識を実践的に身につけさせる。
		基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A		
	主権者としての自覚を涵養するための授業改善。	時事問題などを教材として積極的に取り入れ、社会的な関心を喚起するための授業改善を図る。	B		
		定期的な小テスト実施で、必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	A		
数学科	基礎学力の向上と、わかりやすい授業展開のための授業改善	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し授業改善に役立て、生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	A	A	効果的な ICT 活用についての研究とその共有。 数学検定受検希望者を増やす。
	数学検定資格取得の奨励	学期に 1 回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	B		
理科	教員の指導力の向上と授業改善・基礎学力の向上	積極的な授業公開や授業内容や指導法について情報交換を行うことで授業改善を図り、自己研鑽に努める。各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A	A	各教員が独自で工夫した教材や授業内容、指導方法についての情報交換の充実。特に進学希望生徒に対する指導に關しての進路指導部との連携。
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と理科の関連性を理解させる。	A		
	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	B		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A	A	集団行動を徹底し、授業の開始と終了の規律をもって授業に取り組めるようにする。
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。	A		
	授業改善	目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
芸術	芸術の興味関心を高めるための授業改善	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	生徒の感性を育てるための教材を研究し、個に応じた教材を精選する。
		名品・名跡を鑑賞方法など授業改善し、自己の向上を図らせる。	A		
英語科	基礎学力の向上	単語や基礎的な文法問題の反復練習・確認を行い、苦手箇所を授業内で重点的に説明する。	A	B	Google Forms 等のアプリや ICT 機器を活用し、生徒の学習意欲を高め基本的な英語力の定着を図る。 英検の受験者数の増加や準 2 級以上の合格者数の増加を目指す。
		ノートを定期的に点検して、学習の理解度を把握する。	A		
	モチベーションを向上させるための授業改善	A L T を活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	A		
		簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めるような授業を行う。	B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。	B		
		S T E P 英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B		

別紙様式 2 (高)

家庭科	家族・家庭、地域社会の課題を主体的に解決する能力、人間性等を涵養する学習指導(授業改善)	基礎的・基本的な知識や技能の習得を図るとともに、I C Tの活用、グループワーク等を活用し、生徒主体の授業改善を行い、生徒の人間性等の涵養に努める。	A	A	適時適切な I C Tの活用場面、グループワークの設定場面の工夫がさらに必要である。
	家族・家庭、地域社会の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	生徒の興味・関心を高める課題設定を行い、家庭生活や地域社会をより身近な問題として自分事と捉え、その解決のための実践的な態度を養う。	A		実践的活動の設定場面、実施方法の工夫がさらに必要である。

※ 評価規準 : A (よくできた) B (普通) C (不十分である)